

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和2年 1月～ 3月実績

令和2年 4月～ 6月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 164企業（回答率99.4%）
6. 調査対象期間 令和2年1～3月期実績及び令和2年4～6月期見通し
7. 調査時点 令和2年3月1日（日）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.2%	100.0%
建設業	24	14.5%	23	14.0%	95.8%
小売業	51	30.9%	51	31.1%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.7%	100.0%
合計	165	100.0%	164	100.0%	99.4%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

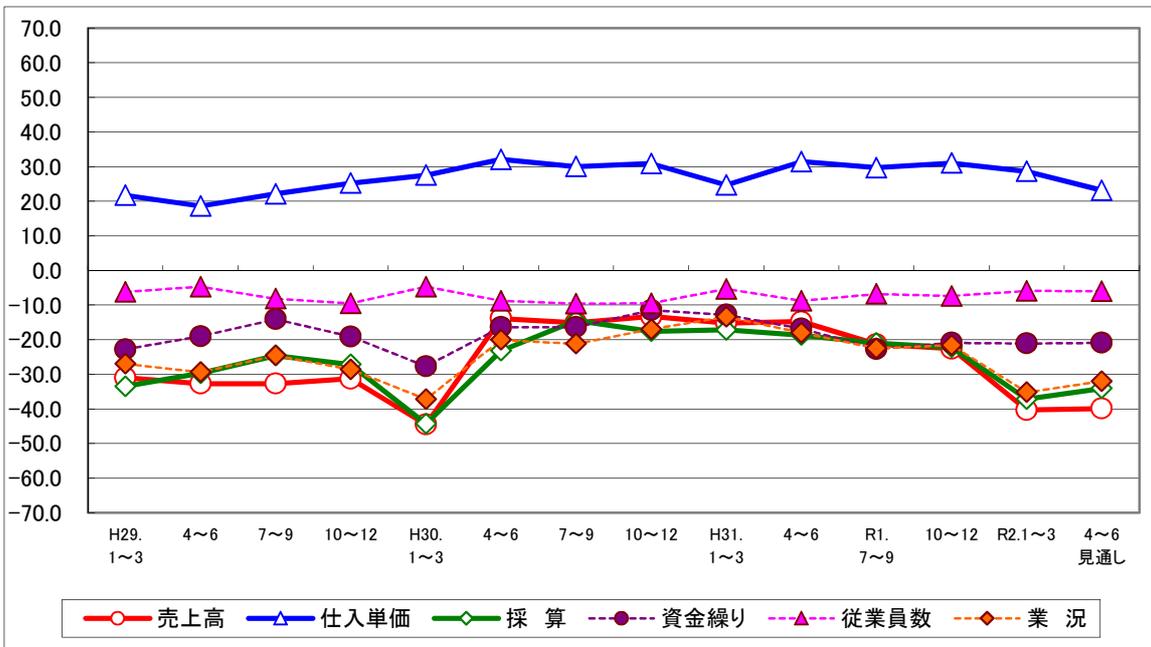
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

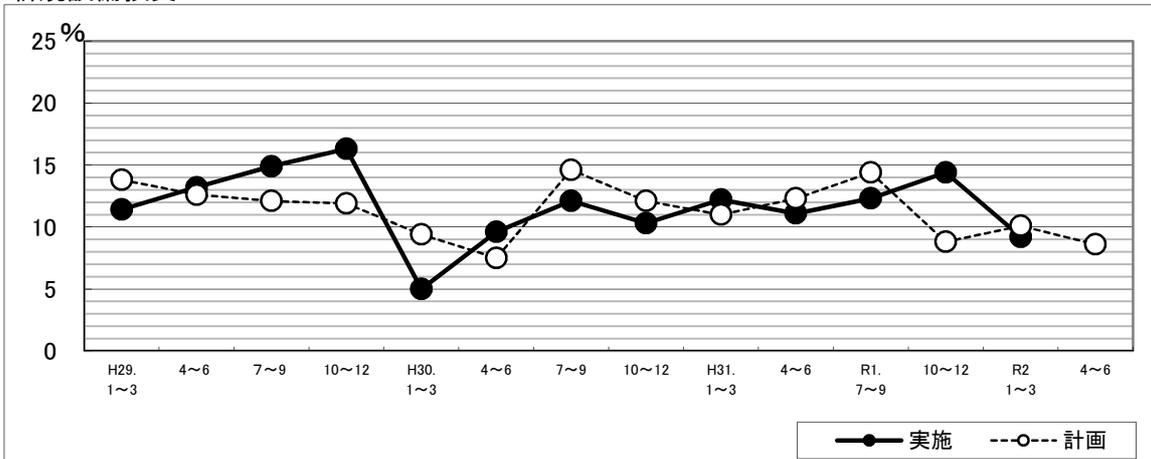
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

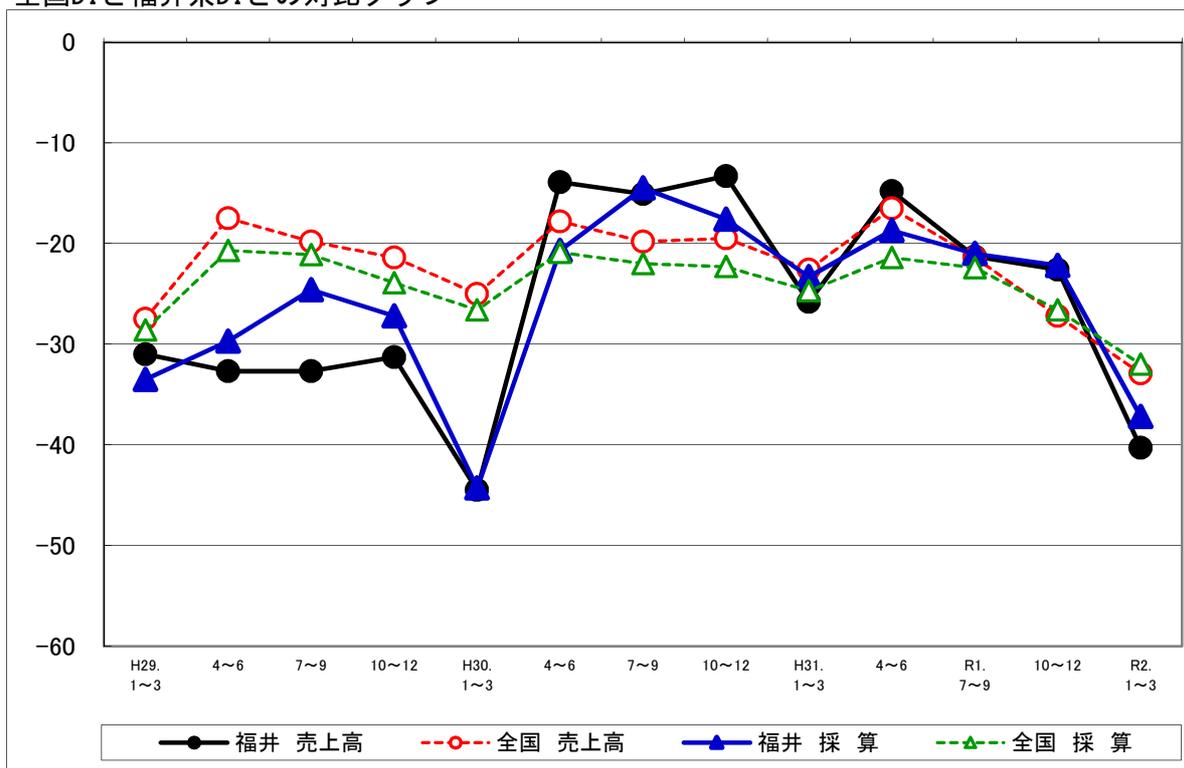
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6見通し	▲ 39.9	23.1	▲ 34.1	▲ 20.9	▲ 6.0	▲ 32.0



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R2年1-3月期の福井県経済を概観すると、需要面では、土日祝日の数が前年より多かったこと等から飲食料品が好調に推移したものの、気温高により冬物衣料品が不調となったことや新型コロナウイルス感染症の負の影響が徐々に広がりを見せていることなどから、前年を割り込む水準で推移している。一方、供給面では、電子部品・デバイスが弱含んでいることや化学も医薬品などで拡大のテンポが緩やかになっていること、さらに生産用機械が弱含んでいることなどから、全体でも弱含んでいる。

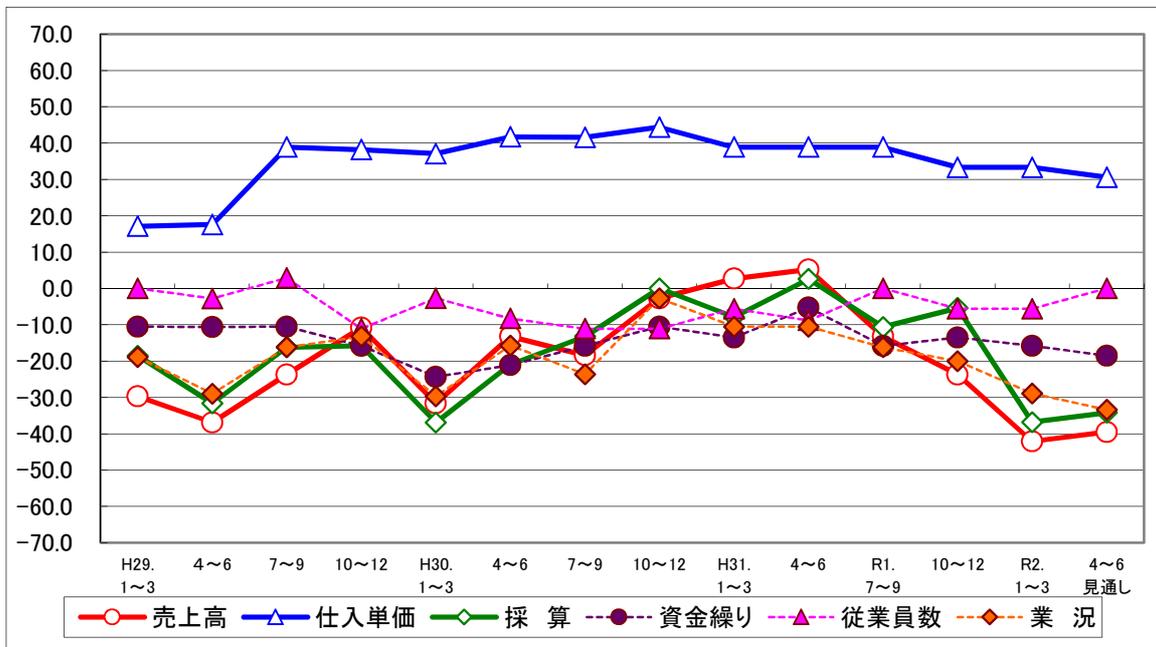
こうした中、今期（R2年1-3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち2項目で改善、4項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、仕入単価（逆指数）（前期31.0→今期28.6）、従業員数（前期▲7.4→今期▲5.9）で、悪化した項目は、売上高（前期▲22.6→今期▲40.3）、採算（前期▲22.2→今期▲37.2）、資金繰り（前期▲20.9→今期▲21.1）、業況（前期▲21.6→今期▲35.2）であった。今回の調査では、福井県の中小企業の場合、全体として売上高の低下から採算や資金繰りが悪化し、業況の悪化が深刻化するなど、厳しい状況にあることがうかがえる。また、先行き（R2年4-6月期）についても、今回調査に比べやや改善はみられるものの、項目とも低水準の横ばいで推移することが予想される。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国、福井県ともにそれらDI値は悪化しているほか、福井県の場合、その落ち込みは全国に比べ大きなものとなっている。そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイト10.1%に対して実施した企業ウエイトが9.2%と、実施が計画を下回っている。また、先行き（R2年4-6月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが8.6%にとどまり、投資マインドはやや低下することがうかがえる。

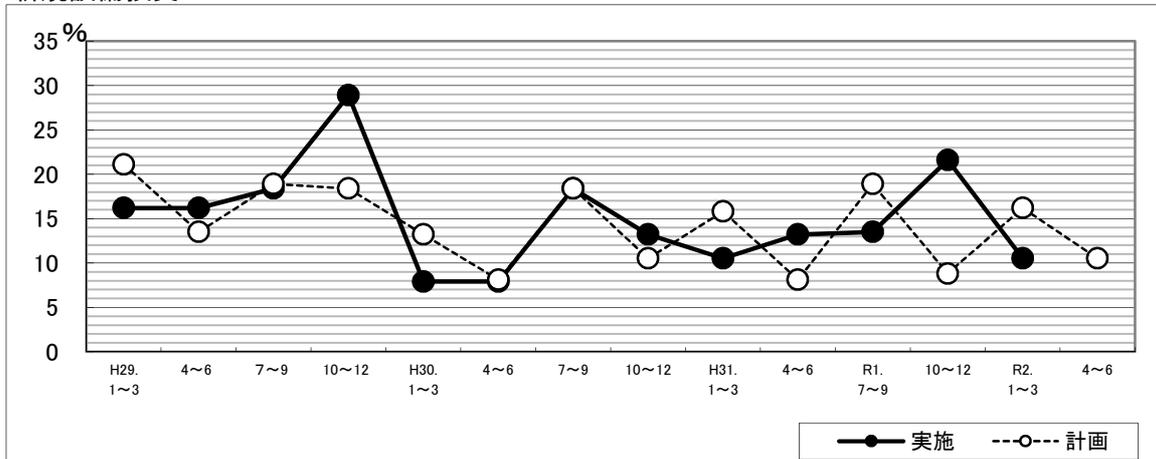
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

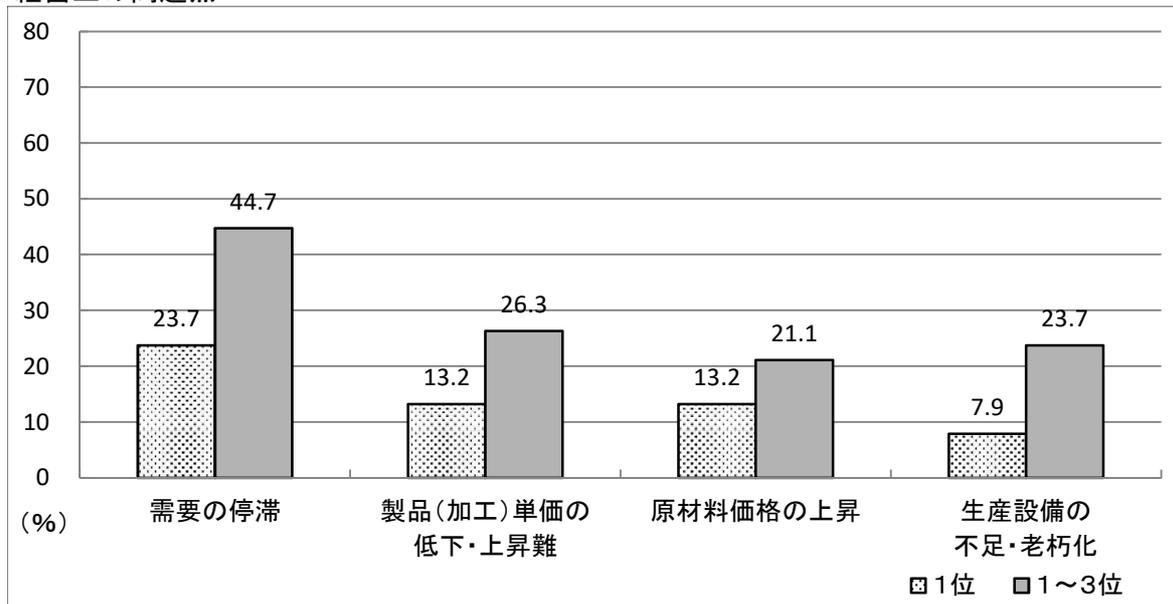
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6見通し	▲ 39.5	30.6	▲ 34.2	▲ 18.5	0.0	▲ 33.4



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・新型コロナウイルスの影響で観光客が減少しており、今後夏までは土産品等の売上が減少する見込み。
- ・消費税増税後の引き合いが特に悪い。さらに、新型コロナウイルスの影響で中国からの資材も一部入ってこないものがある。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、各産業間で新型コロナウイルス感染症の負の影響が徐々に広がる中で、電子部品・デバイスが自動車向けを中心に弱含んでいるほか、化学は医薬品で拡大のテンポが緩やかになっている。また、地場産業でも、眼鏡工業の受注が低下しているほか、繊維工業では、非衣料向けに動きがみられるものの、衣料向けが鈍い動きとなっており、全体でも弱含んでいる。

こうした中、今期（R2年1～3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち2項目で横ばい、4項目で悪化となった。ちなみに、横ばいの項目は、仕入単価（逆指数）（前期33.3→今期33.3）、従業員数（前期▲5.6→今期▲5.6）で、悪化した項目は、売上高（前期▲23.7→今期▲42.1）、採算（前期▲5.4→今期▲36.8）、資金繰り（前期▲13.5→今期▲15.8）、業況（前期▲20.0→今期▲28.9）であった。今回の調査結果からは、県内製造業では売上高の大幅低下から採算、資金繰りを悪化させていることがうかがえる。また、先行き（R2年4～6月期）については、6項目中4項目で改善予測となっている。

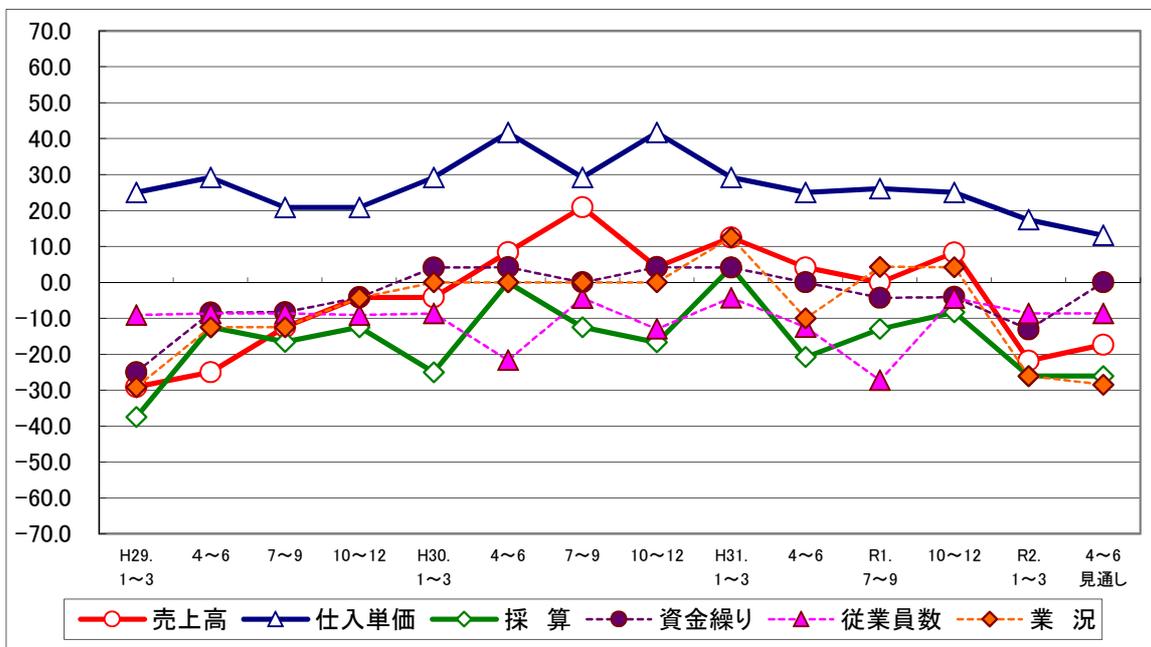
一方、新規設備投資の状況については、計画の16.2%に対し実施が10.5%と、実施が計画を下回ったほか、先行き（R2年4～6月期）についても、何らかの投資を予定する企業が10.5%となり、投資マインドの伸びに鈍化がうかがえる。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く23.7%（1位～3位までに挙げた企業44.7%）を占めた。また、個別の見解としては、「消費税増税後の引き合いが特に悪い。さらに、新型コロナウイルスの影響で中国からの資材も一部入ってこない」など、新型コロナウイルス関連の課題が目立っている。

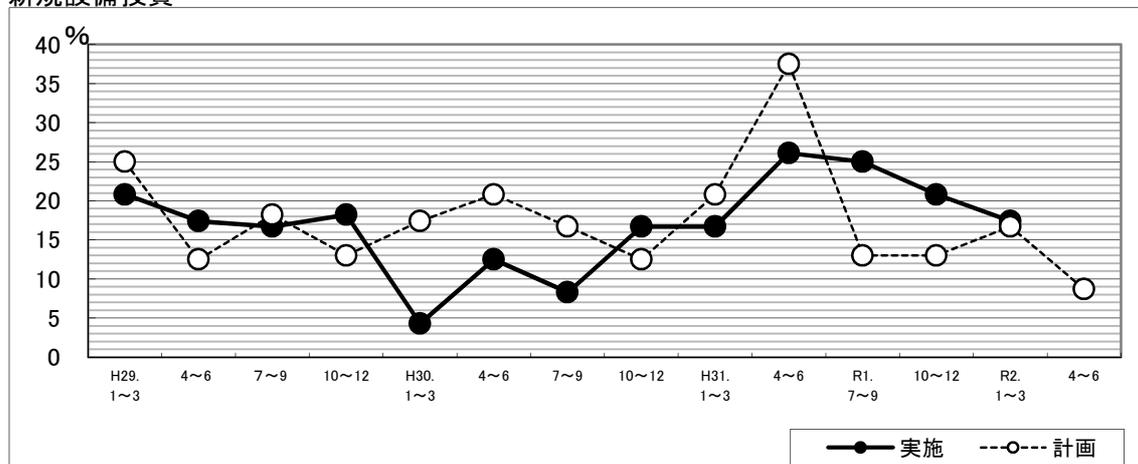
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

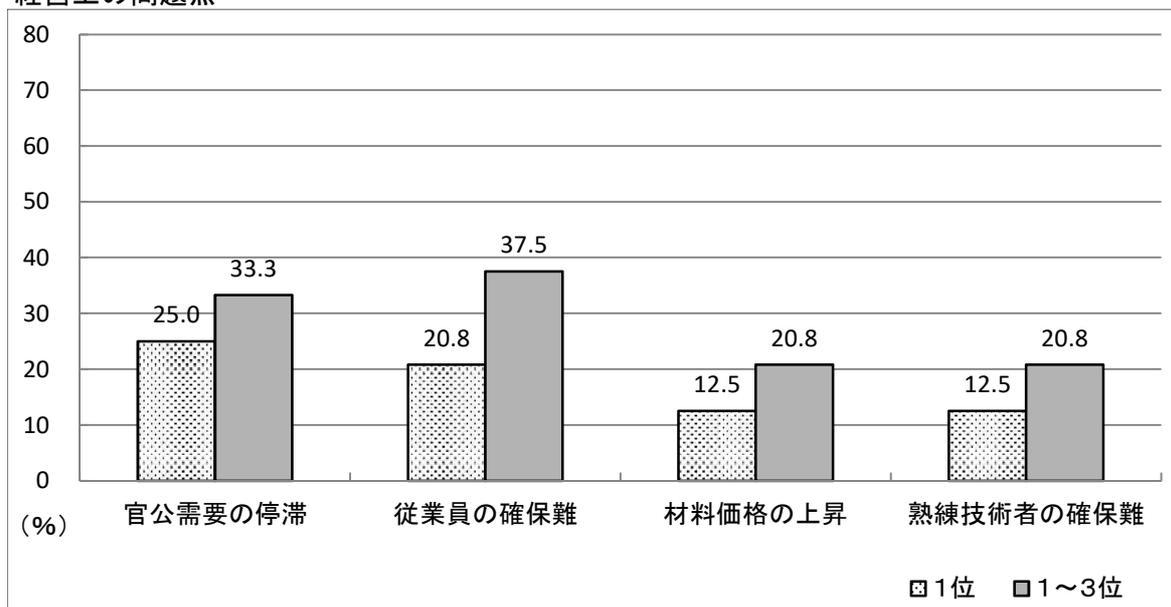
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6見通し	▲ 17.4	13.1	▲ 26.1	0.0	▲ 8.7	▲ 28.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 記録的な暖冬で除雪作業がなく、業況厳しい。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、今後入ってこない材料があり不安である。
- ・ 下請け企業の確保難が続いており、受注機会を逃している。

建設業の景況

福井県内におけるR元年度（H31年4～R2年3月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,781億71百万円の前年同期比27.1%増、発注件数は同3,786件の同3.2%増となっている。これを主な発注者別でみると、県関連工事が525億29百万円の前年同期比11.3%増、独立行政法人等関連工事が597億13百万円の同27.8%増、市町村関連工事が373億08百万円の同11.1%増となっている。一方、住宅投資については、H31年4～R2年2月期までの11か月累計で、前年同期比5.6%増の4,431戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比2.0%減の2,340戸、貸家が同7.2%増の1,543戸となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち仕入れ単価を除く5項目で悪化となった。ちなみに、各項目をみると、売上高が前期8.3→今期▲21.8、仕入単価（逆指数）が前期25.0→今期17.4、採算が前期▲8.3→今期▲26.1、資金繰りが前期▲4.1→今期▲13.1、従業員数が前期▲4.4→今期▲8.7、業況が前期4.2→今期▲26.1となっている。今期については、県内建設業においても徐々に業容が悪化していることがうかがえる。ただ、先行き（R2年4～6月期）については、業況以外はほぼ横ばい、改善予測となっている。

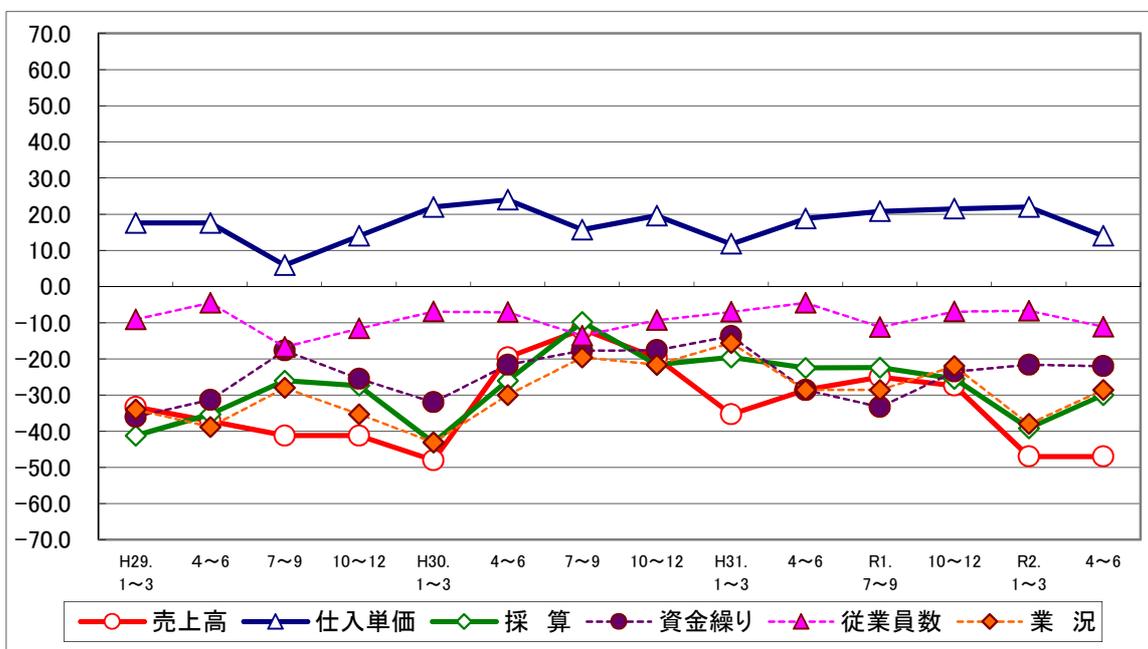
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業16.7%に対し実施した企業が17.4%と実施が計画を上回っている。先行き（R2年4～6月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が8.7%と低調な投資マインドがうかがえる。

最後に、経営上の問題点については、「観光需要の停滞」が1位に挙げた企業ウエイト25.0%、1位～3位までに挙げた企業33.3%を占め最多となった。また、「従業員の確保難」への指摘も比較的多い（1位に挙げた企業20.8%、1位～3位に挙げた企業37.5%）。

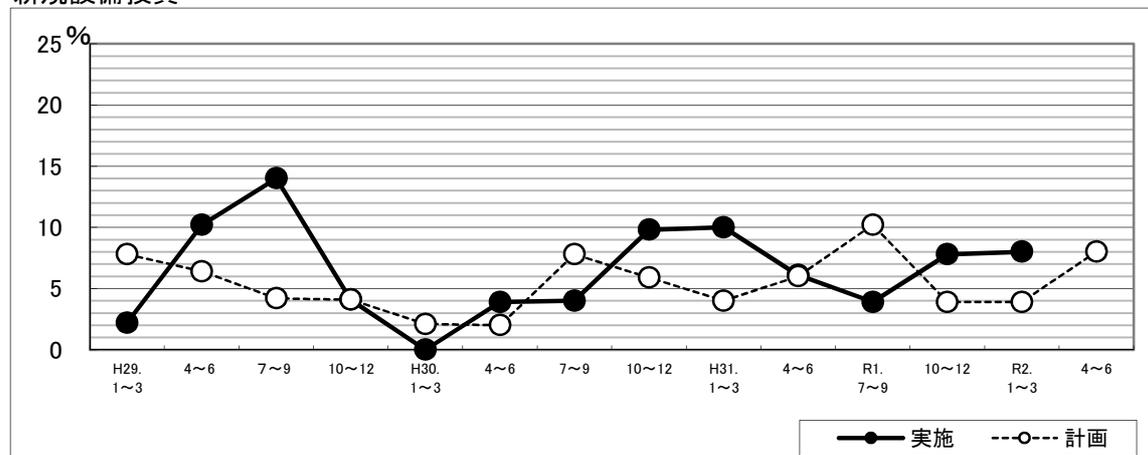
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

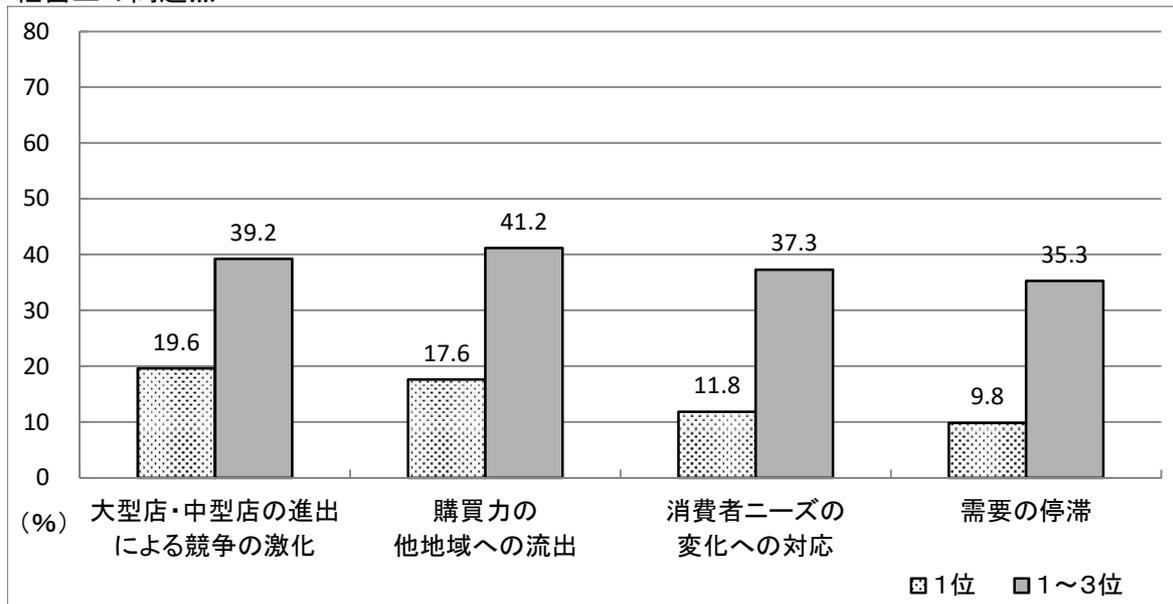
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 47.0	14.0	▲ 30.0	▲ 22.0	▲ 11.1	▲ 28.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・消費増税後、売れ行きがかなり悪くなった。インターネットでの購入者も増えているように感じる。
- ・売上、利益ともに減少している。さらに人材確保も困難な状況続いており将来が不安。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、百貨店・スーパーを中心に記録的な暖冬や新型コロナウイルス感染症の負の影響が徐々に広がっていることから、徐々に停滞感を強めていることがうかがえる。参考までに、近畿経済産業局が公表するR2年2月の大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、前年同月比0.7%増の57億79百万円と5か月ぶりの増加となったものの、その伸び幅は小さい。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、資金繰り、従業員数を除く4項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲27.4→今期▲47.0、仕入単価（逆指数）が前期21.5→今期22.0、採算が前期▲25.5→今期▲39.2、資金繰りが前期▲23.5→今期▲21.6、従業員数が前期▲6.9→▲6.7、業況が前期▲22.0→今期▲38.0となっている。また、先行き（R2年4-6月期）については、悪化予測が資金繰り、従業員数の2項目のみにとどまり、売上高は横ばい予測となっている。

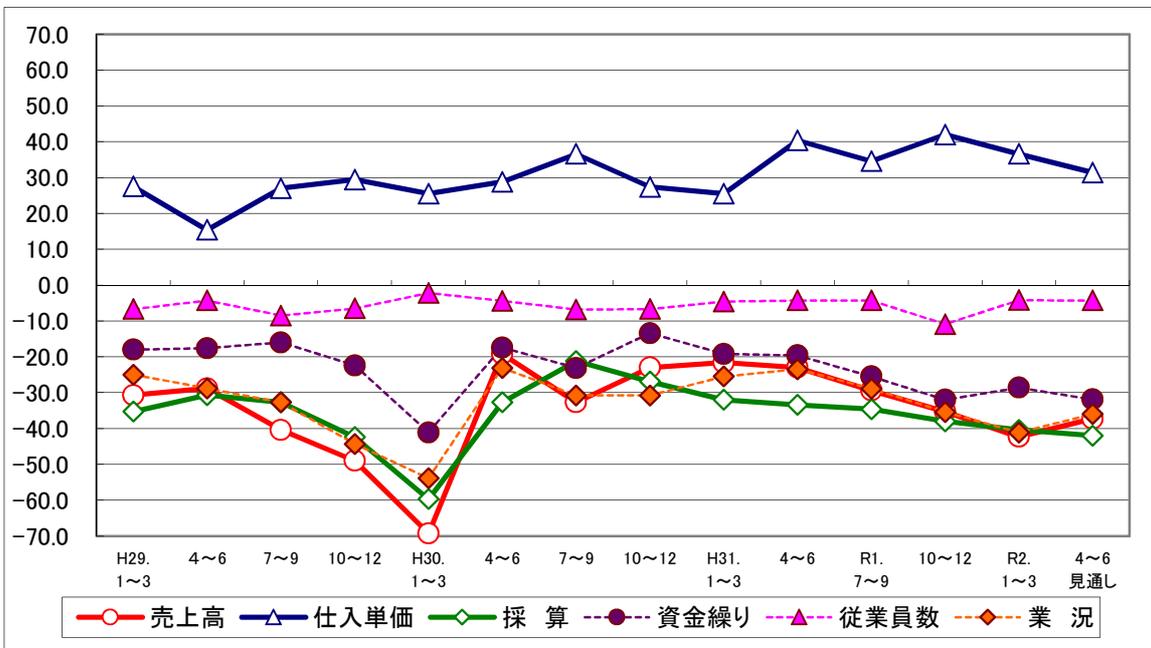
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の3.9%に対し実施は8.0%となり、実施が計画を上回っている。また、先行き（R2年4-6月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが8.0%となり、投資マインドは幾分改善の見通しとなっている。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト19.6%、1位～3位までに挙げた企業39.2%となった。そのほか、個別の見解として、「消費税導入後の売れ行きがかなり悪くなった。インターネットの購入者が増えている」、「売上、利益ともに減少している、さらに人材確保も困難な状況」といった悲観的な声が多く聞かれた。

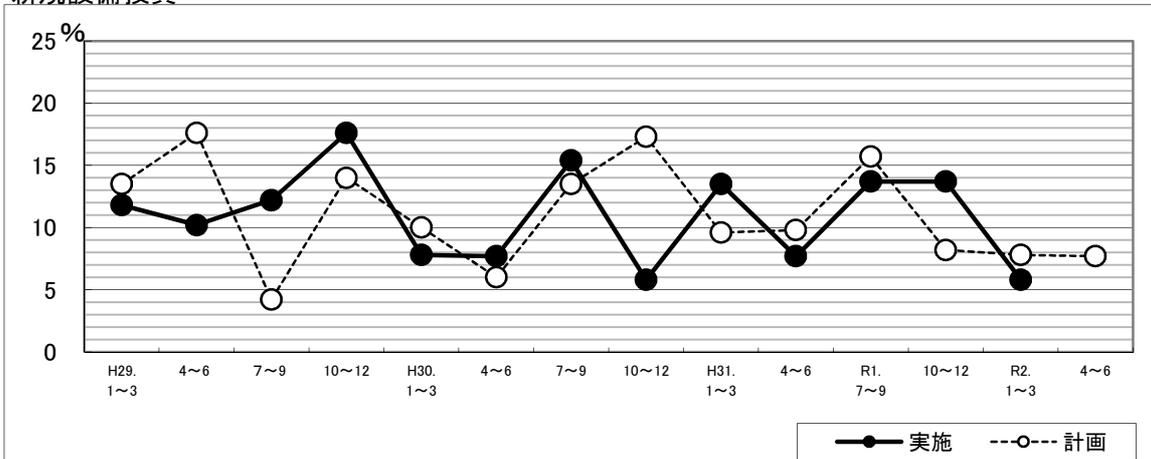
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

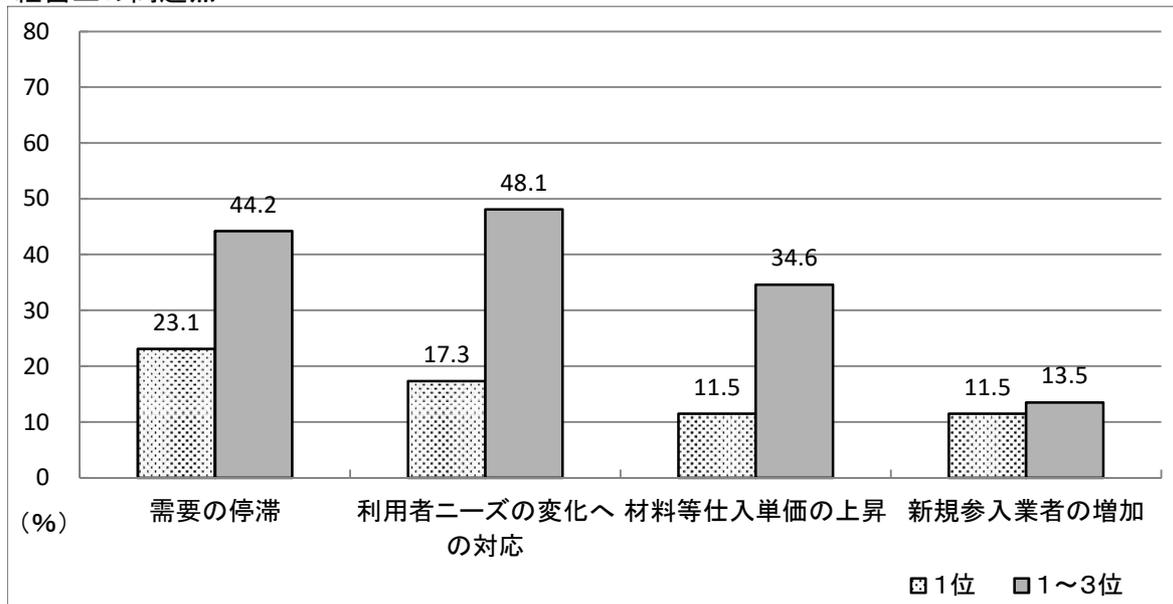
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6見通し	▲ 37.3	31.4	▲ 42.0	▲ 31.9	▲ 4.3	▲ 36.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・新型コロナウイルスの影響で客数減少しており、先行き不安。
- ・消費者の低価格志向根強く、消費税増税分の価格転嫁は容易でない状況。設備投資行い、頑張っていきたい気持ちもあるが、景気悪く実行できていない。

サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるR2年1月の売上高は、30.2兆円で、前年同月に比べ0.3%の増加となるなど、2か月連続で増加している。ちなみに、増加に寄与した主な産業をみると、「不動産業、物品賃貸業」、「情報通信業」など6産業。減少した産業は、「生活関連サービス業、娯楽業」、「運輸業、郵便業」など3産業であった。また、事業従事者数は3026万人で、前年同月比0.7%の増加となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、仕入単価、資金繰り、従業員数の3項目で改善。売上高、採算、業況の3項目で悪化となっている。項目別の指数を見ると、売上高が前期▲35.5→今期▲42.3、仕入単価（逆指数）が前期42.0→今期36.6、採算が前期▲38.0→今期▲40.4、資金繰りが前期▲32.0→今期▲28.6、従業員数が前期▲10.9→今期▲4.2、業況が前期▲35.4→今期▲41.1となっている。引き続き、福井県のサービス業は、厳しい環境が続いていることがうかがえる。また、先行き（R2年4-6月期）については、売上高、仕入れ単価、業況で改善予測となっているものの、改善幅は小さく、同業界の先行きは依然厳しいことが予想される。

一方、新規設備投資については、計画7.8%に対し実施が5.8%と、実施が計画を下回っている。また、先行き（R2年4-6月期）についても、何らかの投資を考える企業ウエイトが7.7%と、引き続き低水準の投資マインドが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト23.1%、1位～3位までに挙げた企業44.2%）への指摘が最も多い。また、個別の見解としては、「新型コロナウイルスの影響で、先行きが不安」などの悲観的見解が多く見られた。

全国・福井景気動向 令和2年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 32.9	33.6	▲ 32.0	▲ 20.9	▲ 6.0	▲ 31.6
	製造業						
	DI値	▲ 38.3	33.6	▲ 35.8	▲ 22.6	▲ 6.1	▲ 35.8
	建設業						
	DI値	▲ 12.4	43.6	▲ 14.1	▲ 6.4	▲ 5.8	▲ 11.0
	小売業						
	DI値	▲ 42.5	24.1	▲ 38.7	▲ 26.6	▲ 4.9	▲ 40.6
	サービス業						
	DI値	▲ 31.8	36.6	▲ 32.5	▲ 22.0	▲ 6.8	▲ 31.0
福井	全体						
	DI値	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
	製造業						
	DI値	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
	建設業						
	DI値	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
	小売業						
	DI値	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
サービス業							
DI値	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

